

World Health Organization Disability Assessment Schedule II（以下：WHODAS）

アセスメントをする時の9つの注意点

① WHODAS アセスメント時期の設定

年に2回、2～3月と8～9月とする。個別支援計画の作成・モニタリングの更新時期前に設定する。

② 記入方法（代理人記入で行う）

就労系やGH（支援区分2まで）は36項目版でアセスメントを実施する。

生活介護や入所やGH（支援区分3以上）は、12項目版でアセスメントを実施する。

12項目版は、D1.1、D1.4、D2.1、D2.5、D3.1、D3.2、D4.1、D4.2、D5.1、D5.5、D6.1、D6.5とする。

③ 30日ルールから180日ルールの変更

30日以内の状態の記録では利用者の明確な状態を記入できないため、年に2回のアセスメントで、180日以内（4月～9月・10月～3月）とする。アセスメント時は、担当の職員や必要な時は本人や家族からも聞き取りを行う。180日以内なので、モニタリング調整等で、それより短くなっても構わない。

④ 健康状態の評価の視点

体調が良い時と悪い時の180日以内の状態を評価する。健康状態が良いときは、普段通りの生活が行えている状態を指す。健康状態が悪い時はいつもと異なり、WHODASの項目が、普段出来ていることが出来ないと評価されることを指す。例えば、疾病や精神的な乱れや、健康上問題はなさそうだが、睡眠不足が続き集中力が低下している時や、ストレスがたまり友人や地域の知人との関係性が良くないときなど。

健康とは、一般的に肉体（身体）的・精神的・社会的に良好な状態を意味している。（WHOの健康の定義「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（日本WHO協会訳）」）

また日内変動（朝調子が悪い）や、1日～30日までの月内変動（給料日前後が不安定など）、曜日による変動（月曜日に多いなど）、季節的（気圧・花粉など）な変動も、評価し必要な場合は記述していくこと。

⑤ WHODASのアセスメントのスコアを目標にするときの視点

スコアが改善することだけが目的ではなく、状態が悪くならないような視点（スコアの継続）、良い状態と悪い状態のスコアの差を縮めるなど、多面的に支援内容を検討していく。

⑥ フラッシュカード

代理人記入者が、フラッシュカードを利用しながら全項目を回答できるようにする。

項目ごとに、参考例を作成し、統一性を出せるようにする。またWHODASの評価は、点数が高いほど、何かを出来る事が難しい状態になるが、日本の文化的にはスコアが高いほど自立度が高いと、認識がされやすいので、以下のように、5点を出来る状態、1点を出来ない状態、**0点は経験がない状態**とする。

（WHODASのフラッシュカード）

5点出来る・4点やや出来る・3点出来る時と難しい時がある・2点やや難しい・1点非常に難しい
5点（100～96%）、4点（95～76%）、3点（75%～51%）、2点（50～5%）、1点（4%～0%）

例) 10回中： 9回以上⇒5点 7回以上⇒4点 半分程度⇒3点 2回以上⇒2点 0～1回程度⇒1点

⑦ N/A (Not Applicable) について

過去に経験がない項目を N/A=0 点と評価する。経験がなくても出来ないと考えられる項目は1点とする。

⑧ 杖や車いす・ヘルパー等による介助があった場合の評価

項目により器具の使用やヘルパー等の介助も含めた評価も行うが、そうでない場合もあるので、項目によって記載している。

人的な介助有での評価項目 : D3.1・D3.3・D3.4・D6.1・D6.2・D6.8

立位が難しい方 : D2.1、D2.5 は車いすによる評価はできないが、杖や歩行器、手すりなどは評価できる。

手話や音声機器などありでの評価可能項目 : 全項目可能

⑨ 健康状態が良い時、悪い時の判断

・良い時の条件 (共通の視点)

通常と大きな変化がない (下記の例は、通常と変化がないことを基本として評価する)

例) 笑顔がある・話ができる・通勤(通所)出来ている・食欲がある・集中することができている・睡眠が取れている・薬が飲めている

(個人や環境因子)

障がいの種類や程度(等級)や特性・病気の症状や特性・家庭(生活)環境・性格・医療、福祉サービスの利用などによる、健康概念の変化

・悪い時の条件

良い時の条件が当てはまらない時

毎日通勤(通所)しており、食欲もあるが、薬が飲めていなくて夜の睡眠がとれず集中できていない。

睡眠を普段より著しく取れていない状態が2日以上続いている。

食事の量が普段より著しく取れていない状態が2日以上続いている。

目つきがしんどそう、言動が普段より異なり第三者が見ても不穏状態である場合。

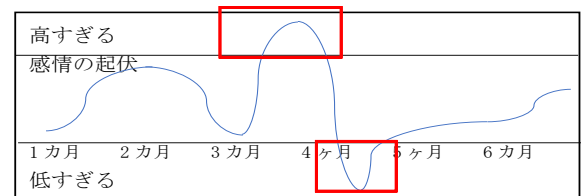
電話やLINEの相談が、勤務時間外に複数回連絡がある場合など。

躁うつ病などの状態で、どちらかを悪い状態化を判断するときは、支援内容から検討し、必要な支援(評価)を選択し、アセスメントを取る。

例) 躁うつ病の人

個別支援計画の目標・・・自分の金銭の管理が出来るようになる。

概要・・・そう状態になると、持っているお金をすべて使ってしまう、その後生活が苦しくなりうつ状態になることがある。障がい者年金を銀行口座から引き出すときや通所事業所の工賃が入ったときに、そう状態になってしまうことがある。上記の場合は、そう状態からうつ状態になり、そう状態にならないように支援が必要なため、その時の健康状態の悪い時をアセスメントする。



※健康状態の悪い時はどちらを評価するかでスコアが大きく変化するため、支援が必要な方に重点を置くこととする。

※障害福祉支援員は、ストレングス視点の支援教育を受けていることから、利用者の強みの部分を見ることが得意であり、必要な課題を抽出することが不得意な場合もあるので注意する。しかし必ずしもそうであるわけではなく、利用者の弱みやネガティブな視点で計画を立てる傾向がある者は、ストレングス視点を取り入れる。ICFの目的である、「生きることの全体像」として捉える。

領域 1 (意思疎通)

・意思疎通の領域（手話通訳や触手話・音声機などによる意思疎通が可能な場合は利用を含めて評価する）

DL.1 10 分間何かを行うことに集中する

必要条件は 10 分であり、例えば 9 分だったら出来ていないとして 1 点の評価とする。スコアの 1～5 点の基準は 10 分間の量を評価する。10 分間以上何かを行うことに集中している人は 5 点。10 分の集中ができていない時とできない時が半分くらいなら 3 点とする。（一週間の個別プログラムの全体の数から、どのくらい 10 分以上の集中が出来ているかで評価する。例えば、全体のプログラム数が 10 あるうちアセスメント時に 5 つの活動は 10 分以上できていれば 5 つ出来ている 3 点の評価となる。）散歩・ゲーム・YouTube・絵を描くなど評価から除外する。



10 分間の集中の頻度

5 点 (100～96%)	4 点 (95～76%)	3 点 (75%～51%)	2 点 (50～5%)	1 点 (4%～0%)
すべての活動で、10 分間の集中ができています。	全体の活動のうち、概ね 10 分間の集中ができています。	全体の活動のうち、半分以上、10 分間の集中ができています。	全体の活動のうち、半分以下は 10 分間の集中が出来ています。	全体の活動のうち 1 つ以下は 10 分間の集中が出来ています。

DL.2 重要事項を行うことを覚えておく

下記の例が覚えて行うことができたかを評価する。行う活動内容は評価しない。携帯電話のアラームやメモ書きをして覚えていたら出来ていると評価する。

5 点 (100～96%)	4 点 (95～76%)	3 点 (75%～51%)	2 点 (50～5%)	1 点 (4%～0%)
常に覚えて行うことができる	おおむねできる	出来る時とできない時が半分くらい	たまにできる	ほとんど出来ない

例) 就労系…その人の仕事や役割・時間・ルールを覚えておく事ができる。

生活介護…昼食の時間や活動の時間を覚えている（チャイム等の認識も可）。

事業所の自分の持ち物の場所や掃除道具の場所などを覚えている。

GH…時間や服薬、GHのルールなど覚えている。

DL.3 日常生活上において問題の解決方法を発見する

日常の問題点に焦点を当てるが、事業所内で確認できる範囲でよい。問題点は、金銭面・対人トラブル・意思の伝達（思いを伝える）こととした。

解決方法を発見する解釈を、その問題点に意識できることを評価の対象とする。

解決方法は本人さんが発見することが必要だが、その際に支援員や家族に尋ねることも解決方法の発見ができればできていると評価する。

5 点 (100～96%)	4 点 (95～76%)	3 点 (75%～51%)	2 点 (50～5%)	1 点 (4%～0%)
常に解決方法の発見が出来ている	解決方法がおおむね発見できている	解決方法の発見が出来ている時とできていない時が半分くらい	たまに解決方法を発見することが出来ている	ほとんど解決方法が発見できない

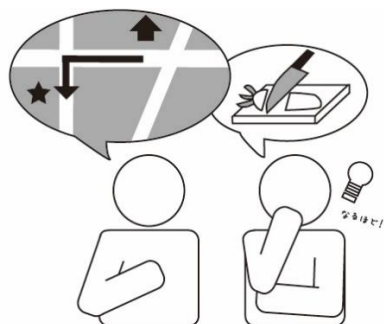
D1.4 新しい課題を学ぶ

個別支援計画の目標を月単位で細分化し、スモールステップを進んでいくことで課題を学んでいると評価する。仕事以外の目標でも良く、当法人の場合は月目標の達成度合いを評価する。

またこの評価項目は事業所側の支援や目標設定の評価もできる。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
月目標が100%達成できている	月目標が75%以上達成できている	月目標が50%程度達成できている	月目標が25%以上達成できている	月目標が25%未満の達成

※今まで経験したことがない課題だけでなく、繰り返し同じ課題でもその時の新しい課題として考える。



D1.5 人々が言っていることが何かを普通に理解する

人々が言っていることは何かというのを、障がいの種別や程度によって伝える手段が異なるため、事業所内での職員との会話のやり取りを評価する（文字や手話や触手話も含む）。

例えば、普通という範囲を、朝食を例に挙げて、どのような返答ができるかを評価する。下記の評価は、複数回のやり取りがあっても可能である。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
いつ、だれと、なにを食べたかと、食事の感想が話せる	いつ、だれと、何を食べたか返答できる	だれと、何を食べたか返答できる	何を食べたか返答できる	食べた、食べていないか返答できる

D1.6 会話を継続できますか

クローズクエッションのやり取りの、はい・いいえ、○・×のみのやり取りは会話としない。自分の要望も伝えられること且つ相手の言葉も理解できていることを評価する。状態が悪く支離滅裂な会話は出来ていないと評価する。手話・筆談・ジェスチャー・機械等で思いを伝えられ、相互に理解できる場合は出来ていると評価する。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
日常生活上の対話ができる	日常生活の対話がおおむねできる	日常生活の対話が半分くらいできる	日常生活対話がおおむねできない	相互のメッセージの理解が難しい

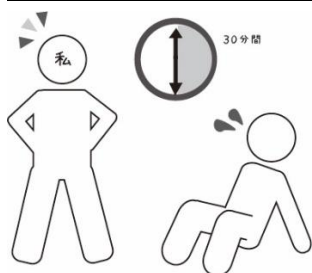
領域 2 (運動)

・運動機能の領域（杖や手すりは利用可能とするが、車いすは利用可能な項目とそうでない項目があり、ヘルパー等の介助の評価は含まない）

D2.1 30分程度の長い時間立っていられますか（立位不可1点、杖や歩行器、手すりの活用は評価する）

立つことが可能かどうか時間軸において確認。杖などの使用可。ただし、車いすユーザーの方で立位が難しい場合は出来ないと評価する。（健康状態が悪い時で家にこもってしまう方でも立つことが出来る時間の評価を行う）

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
30分間以上立てる	20～29分程度立てる	10～19分程度立てる	6～10分程度立てる	0～5分程度立てる



D2.2 腰かけた状態から立ち上がれますか

座位から立位が可能であるかの確認。手すりや杖などの使用も含めて評価する。ただし、この場合はヘルパーなどの人の介助は含まない。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
何も使用せずに立てる	難しい場合もあるが、おおむね何も使用せずに立てる	杖や手すりの使用で立ち上がることが可能	決まった環境だと立ち上がれる	1人で立ち上がることが難しい

D2.3 あなたの家の中で移動しますか

家の中で1人の移動が可能であるかの確認。杖や車いすなどの使用も含めて評価する。ただし、この場合はヘルパーなどの人の介助は含まない。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
1人で移動が可能	器具等を使用して移動が可能	移動できる範囲が決まっているが半分以上は移動可能	移動できる範囲が半分以下だが移動は可能	家の中で1人での移動は困難

D2.4 家の外に出る

外に出かけて帰ってくることも含む。この項目は杖や車いすの利用は可能であるが、ヘルパー等の介助は含まない。

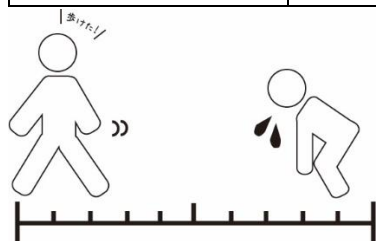
5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
初めての場所でも1人で出かけて往来可能 公共交通機関も利用できる	決まった場所なら公共交通機関を利用しても往来可能である	公共交通機関は利用できないが、徒歩圏内の日常生活上の往来は可能である	移動できる範囲は、居住地の近くで限定的であるが、その場所なら往来可能である	1人での外出時の往来は困難

D2.5 1キロメートルくらいの距離を歩くことが出来ますか（立位不可1点、杖や歩行器、手すりの活用は評価する）

歩くという行為の運動能力や体力的なことを評価する。杖歩行や誰か（多動があり見守りが必要等）と一緒に歩くなどは出来ると評価するが、担いでもらうようなことは含まない。距離が分からない場合は、おおよその距離を勘案して場所や時間を示す。途中の休憩も可能である。

（健康状態が悪い時に家に閉じこもっている場合は、①状態が悪い時の通院時の体力の程度を観察して評価することや②歩けないくらい健康状態が悪い時や閉じこもってしまう場合は1点とすることを視点とする。）

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
1人で移動が可能	杖などの器具の使用や、一緒に歩いてくれる人がいれば1キロの移動が可能	1キロは難しいがそれに近い距離(500M以上)は可能である	器具の使用や、一緒に歩いてくれる人がいれば、1キロは難しいがそれに近い距離(500M以上)は可能である	歩く行為が難しい、もしくは500メートルも歩けない



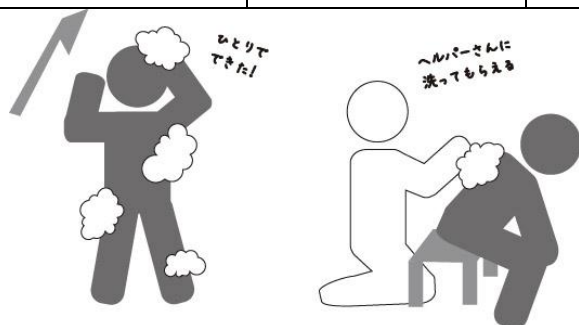
領域3（自己管理）

・自己の管理であるので器具やヘルパー等の介助も含めて評価を行うが、D3.2は1人で出来るかどうかを問われているので、1人で出来るかどうかを評価する。

D3.1 全身を洗う（洗い方・しっかりと洗えているかも含めて評価する）

人の介助を利用すれば全身を洗うことは可能と考えられることと、日本文化では毎日の入浴（シャワーのみ）が一般的であるため、それらを考慮して評価する。ただし、高齢者等の場合で、2日に1回程度の入浴が習慣的な人は、3点で評価する。この項目は住居の環境や身体状況も考慮して清拭も含めて評価する。（通所事業所ではわからないので家族への確認を行い、必要な場合は事業所でも洗い方を場の想定しながら練習する）

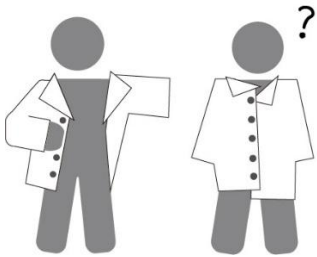
5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
基本、毎日全身を洗っている	おおむね毎日洗えているが、できない箇所や場合もある	月の半分は、全身を洗えている 毎日洗っているが、こだわりがあり、介助者がいても部分的に洗えない	週に1~2回程度洗うことができている もしくは、介助者がいても一部分しか洗えない	月に0回~2回程度しか洗えていない もしくは、介助者がいても洗うことが難しい



D3.2 自分で服を着る

出来ている範囲で評価する。この質問には「自分で」と個人を指しているため、ヘルパー等による介助では出来ないと評価する。ボタンが留められることが出来ないが、ボタンのない服を購入している等の工夫も含めて評価する。服を裏表反対に着ていることや、靴下をバラバラに履いている等は評価対象とする。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
1人で服を着ることができる（一般的な着こなしができる）	声掛け、見守りがあれば1人で服を着ることができる（身だしなみも声掛けをすれば直せる）	1人で服を着ることがおおむねできているが、一部着ることが難しい（靴下がはけない）	1人で服を一部着ることができる（Tシャツのみ、下着のみなど）	1人で服を着ることが難しい



D3.3 食事をする（栄養やバランス回数などを評価する）

食事をしていることを評価する。流動食や胃ろうでの食事の方も出来るに評価する。作ることや介助の必要性ではなく、食べているかどうかを評価するので食事介助があっても出来ていると評価する。ただし、極端に偏りのある食べ方（本来は食べられるが野菜を食べない、コーラしか飲まない）は、適切な食べ方が出来ないと評価し、過食・拒食がある方は、食事の量及び回数（1日1食）としても評価する。ただし、食べる量に関しては精神的に食べることが出来ない等の状況を踏まえて、サプリメントやエンシュアリキッド等で栄養を整えている方は出来ているに評価する。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
バランスよく、健康的に食事を摂っている	時折、気になる偏食はあるが、体重の増減もなく、健康を妨げない	偏食はみられ、体重の増減もあるが、健康を妨げるまでとは言えない	明らかな偏食があり、その原因が健康を妨げている	食事及び補助食で健康が保たれる状態ではない

D3.4 数日1人で過ごす（1人でなければならないが、生活上必要なヘルパーの介助は利用可能とする。）

世帯単位の単独世帯（1人暮らし）であるかどうか問われている、実際には1人暮らしをしていない人も多くいるため、何が出来ているかを評価し、それができていれば1人で暮らすことが可能であると考えられる項目を4つ示した。

①鍵がかけられる ②相談ができる ③他者に迷惑をかけていない ④平日の日中に通う場所がある

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
上記の内容がすべて出来る	上記の内容のうち、3つは出来る	上記の内容のうち、2つは出来る	上記の内容のうち、1つは出来る	出来ない及び難しい

領域4 (人付き合い)

・コミュニケーションをどれくらい取れるか確認。手話通訳や触手話、音声機械の利用も同等の評価を行う。

D4.1 知らない人とのやり取り

・日常のあいさつから相談や困ったことなどを含めて評価する。コミュニケーションは場所や人の影響もあるため、それも含めて評価する。(ジェスチャー等の挨拶も含む)

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
どこでも1人で初めての人と挨拶や会話ができる。店員や警察官など、困ったこと質問できる	決まった場所(学校や職場等)であれば、 <u>初めての人とでも会話</u> が出来る	決まった場所(学校や職場等)で、 <u>親しい人の協力があれば、初めての人とでも会話</u> が出来る	決まった場所(学校や職場等)で、 <u>親しい人の協力があれば、初めての人と挨拶</u> が出来る	知らない人とはコミュニケーションが取れない



D4.2 友人関係を維持する

一方的なコミュニケーションだけでなく、相互に意思疎通を取り合っているかどうか評価する。外出が難しい場合も考えられるので、携帯電話の利用や決まった場所で会ってコミュニケーションを取ることも評価する。この場合のコミュニケーションや挨拶は言葉でなくても、表情で伝えられる事も出来ていると評価するが、支援者等がいる場合は、より深くコミュニケーションが取れるようにサポートする。維持できていることは、相手に受け入れてもらっていると考える。またヘルパー等を活用して友人と出掛けることが出来ていれば、出来ていると評価する。

例) 直接的なコミュニケーションは難しいが、支援者等を通して、相手との意思疎通を取り、移動支援でグループ支援を依頼し、出掛けることが出来ていれば5点と評価する。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
色んな方法で友人と相互に連絡を取り合い、出かけたりにしている	色んな方法で友人と相互に連絡を取り合っている	決まった場所で会い、挨拶や会話ができおり友人関係が維持できている	決まった場所で会い、 <u>挨拶のみ</u> できおり友人関係が維持できている	友人との連絡のやり取りはない。または維持できていない状態



D4.3 親しい人と交流する（親しいとは、家族及び血縁関係を指す。）

親しい人は血縁関係者及び配偶者、いない場合は、それに代わる人（血縁関係ではないがプライベートでお世話をしてくれる人、もしくはいないため1点で評価する。）との交流に関して、コミュニケーションやスキンシップ、出掛けることなどを含めて、関係性を評価する。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
良好な関係が築けている	時々関係性が悪くなるが、1か月の半分以上は良好である	1か月の半分くらい関係性は良好である	1か月のうち関係性が良い時より悪い時の方が多い	関係性が良好ではない

D4.4 新しい友人を作る（機会が少ない可能性があるため1年～2年くらいまでの過去を含めて評価する）

新しい友人を作る機会は多くないため、実習生や見学者など知らない人と会うことや、社会的交流の場（知っている人や知らない人が同じ目的や趣味で集う場所）に参加し、コミュニケーションを取っているなど行っている場合の評価も含む。例えば、たまたま作業所に新しい人が来て、その人と会話ができた仲良くできたら、新しい友人を作れたと評価する。ただ、機会の偏りがあるため、1年～2年に遡って、その人が友人を作る言動が可能であるかどうか評価する。加えて、自ら積極的にできるのか、相手から声をかけてくれたら大丈夫なのか等の自身の行動も評価する。

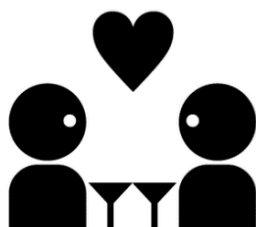
5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
自ら積極的に交流し、気が合う仲間が出来たら交友関係を作ることができる	自ら積極的には行動できないが、声をかけてくれたら交友関係を作ることができる	第三者が間を取り持ってくれたら、交友関係を作ることができる	第三者が間を取り持ってくれたら、交友関係を作るのに時間はかかるが、交友関係を作ることができる	新しい友人を作ることは難しい



D4.5 親密なスキンシップ（この質問は半年以内だけでなく過去にも交際経験があったか評価する）

交際相手がいるか、またはいたかどうかを評価する。またその人との関係性をどのように作れるか及び保てるかを評価。好きな人がいるかどうかではない。人付き合いの領域の為、交際相手との会う頻度や連絡の取り方も含めて評価する。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
交際相手おり、関係性も良く、連絡も取り合っている	交際相手がいるが、関係性が不安定で、連絡も少ない	半年以内に交際相手がいたが、現在はいない	半年以上前に交際相手がいたが、現在はいない	交際経験がない



領域 5（日常活動）

・仕事や家事がどの程度、日常生活で行えているかをアセスメントする。ただ、事業所から分かりにくいところもあるので、本人や家族に確認を行う。他者に協力してもらっている内容は、項目ごとで確認して、それに応じてアセスメントを行う。

D5.1 自分の受け持つ家事を行う（自分の受け持つと質問されているのでヘルパー対象外）

受け持つ範囲は指定されない。家事の中で役割があり、行っていれば評価可能である。

家事は一般的に、家庭内のいろいろな事柄や、家庭生活を営むための大小いろいろの用事。掃除・洗濯・炊事等と説明される。（健康状態が悪い時にやればできるかもしれないが、結果的にやらなければ1点の評価をする。また、出来るがコントロールが出来ない場合は、出来る評価をしつつ備考欄に詳細を記載する）

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
家庭内の家事の役割が複数あり、回数はほぼ毎日あり、出来ている	家庭内で家事の役割があり、回数はほぼ毎日あり、出来ている	家庭内で家事の役割があり、回数は、月に半分程度であり、出来ている	家庭内で家事の役割があり、回数は月に数回程度であり、出来ている	家庭内で家事の役割が出来ない、もしくは役割がない



D5.2 今あなたにとって最も重要な家事をうまくやっていますか（ヘルパー対象外）

重要な家事は本人にとっての重要度であり、他者からは指定されない。うまくやっているかどうかの質問なので、どの程度出来ているか確認する。結果的にできていなければ出来ていないこととする。

例) ごみ捨ては出来るが、分別は難しいのでヘルパーにお願いしている場合は3点とする。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
家庭内の重要な家事が最後まで出来ている	家庭内の重要な家事がおおむね最後まで出来ている	家庭内の重要な家事が半分程度まで出来ている	家庭内の重要な家事が少しできる	家庭内の重要な家事が出来ていない



D. 5.3 あなたにとって必要なすべての家事を済ませることが出来ますか（ヘルパー対象外）

ヘルパー利用されている場合は、備考欄にヘルパー利用と記入する。

世間一般的な視点で評価する。例えば週末にまとめて掃除をすることは、出来ていると判断する。またすべての範囲を、料理・掃除・洗濯・買い物、の4つに絞って評価する。

5点 (100～96%)	4点 (95～76%)	3点 (75%～51%)	2点 (50～5%)	1点 (4%～0%)
料理、掃除、洗濯、買い物が全て出来ている	料理、掃除、洗濯、買い物のうち3つ出来ている	料理、掃除、洗濯、買い物のうち2つ出来ている	料理、掃除、洗濯、買い物のうち1つ出来ている	出来ない

D5.4 必要に応じてできるだけ手早く家事を済ませることができますか。(ヘルパー対象外)

手早くとは、時間を短縮して家事を済ませることとする。時間をかけて行うこともできるが、急いでいるときなど、家事を時間短縮で行えるかどうかを確認する。D5.3 で出来ている家事(料理・掃除・洗濯・買い物)から評価する。(D5.3 が1点の場合はD5.4 も1点となる)

例：掃除機がない場合にクイックルワイパー等を代用し、時間が限られるので簡易に掃除する・洗濯物を取り込みながら靴下をセットし手早く済ませる・カップラーメンを待ってる間にテーブルを拭くなど2つのことを1度に行う等の手早く済ませる方法を含む。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
常にできている	概ねできている	半分くらいできている	時々できている	難しい



D5.5 仕事または学校での日々の活動を行う(通所事業所も含む)

通勤、通学、通所していれば、何かしらの活動はしているものとする。通うことができたら出来るものとするが、通えない場合は、その程度を含めて判断する。健康状態と30日のうちどの程度であったかで評価を行う。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
常に通うことが出来る	おおむね通えている	半分以上通えている	たまに通えている(月に数回~半分程度)	通えていない、または通う場所がない

D5-5 仕事または学校での日々の活動をおこなう



D5.6 あなたにとって、最も重要な仕事または学校の課題を済ませましたか(通所事業所も含む)

課題を役割や活動内容及び期待としてとらえる。例えば通所事業所での仕事や学習、掃除などを含めて考える。活動自体に参加して、役割があり、期待通り(ここまでするという確認)遂行出来ていたら、出来ていることとする。(新しい仕事や課題に取り組む場合は、新たな視点で評価をするためスコアが下がる場合もある。)

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
役割があり、遂行出来ている	役割があり、おおむね出来ている	役割があり、半分以上は出来ている	役割はあり、たまに出来ている(月に数回~半分程度)	役割はあるが遂行出来ていない、または役割がない

D5.7 あなたが必要な仕事または学校でのすべての仕事を済ませましたか

通っている場所で、その人の役割をすべて済ませているかどうかを評価する。すべては、人によって異なるので、その量や難しさは判断しない。その人の行うべき役割や課題のすべての遂行状況を把握する。

例えば、飲食店の仕事で、健康状態が悪い時は、接客が難しい。しかし、皿洗いや調理補助など出来ているので健康状態が悪い時の評価を3点とすることや、健康状態が悪い時は、半日で帰宅する場合は3点とする。

(事業所における仕事量全体のうちどれくらいできているかを評価する。D5.6 で出来る仕事が増えれば、D5.7 のスコアが上がる場合がある。)

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
全ての役割を、済ませることが出来る	全ての役割を、おおむね済ませることが出来る	全ての役割を、半分程度済ませることが出来る	全ての役割を、一部済ませることが出来る	全ての役割を、済ませることが出来ない

D5.8 必要に応じて行うべき仕事をできるだけ手早く済ませたか

手早くとは、時間を短縮して仕事を済ませることとし、さらに期限通りにできているか確認する。通う場所が無い場合は5点とする。

例) 1日で10枚のTシャツを袋詰めする仕事を、期待通りの結果であり、且つ予定の時間より早く終わらせた場合は、5点とする。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
今の役割を常に決められた時間より早く終わらせている	今の役割を決められた時間より早く終わらせることが、おおむね出来る	今の役割を決められた時間より早く終わらせることが、2回に1回程度出来る	今の役割を決められた時間より早くすることが一部及びたまにできる	今の役割を決められた時間より早く終わらせることが出来ない



領域6 (社会参加)

- ・社会との結びつき (参加) の難しさや、経験や価値観 (制限) について。

D6.1 他の人と同じ方法で地域の活動に参加するのにどれだけ問題がありましたか。

自治会・祭り・宗教 (信仰)・スポーツサークル活動等、集団の輪に所属することへの問題とされているが、このような機会も日本社会では少ないと考えられるため、制度や、仕事・学校・通所事業所に所属することの問題まで幅を広げて考える。介助者がいない、物理的バリアや心理的バリアも含めて参加の難しさを確認する。

例えば、制度や事業所内のサービス (送迎など)、親族による制限など。ここでの、質問の意図を社会生活での問題点としてとらえる。問題はあがるが、周り (家族) の人のサポートがあれば参加できるという事であれば、それも含めて判断する。(1点の場合は引きこもりの方の初回面談等が対象となる)

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
平日・土日祝、問題なく地域活動へ参加できている	おおむね問題なく参加できているが、ヘルパー不足などで一部参加できない時がある	平日は参加できるが土日祝は難しい、もしくは、週の半分以上は参加できている	問題が生じており、参加できることが少なくなっている 週2.3日の地域活動へ参加できている	著しく問題が生じており、地域活動への参加が非常に難しい、または家から出ることが難しい



D6.2 あなたの身の回りに生じた障害（バリア）、妨げによって、どれだけ問題を抱えましたか。

問題を抱えるという質問から、人的、物理的、心理的問題として、やりたくても出来なくて悩んでいることを考える。例えば、車いすユーザーの方が、お店に段差があり行けないが、助けてくれる店員さんがいる場合は問題ない。駅員がいない駅で、電車に乗れないため問題である。福祉サービスを利用したくてもヘルパーがいない。世帯内で、本人にとって強いプレッシャーをかけられる。また、食事や医療等の生活上必要な行為が受けられないなど、バリアとして捉える（ヘルパーの支援があれば出来ているとする）。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
抱えている問題がない	問題はあるが、クリアできている。多少のストレスはあるが、大きくはない	問題があり月に数回悩んでいる。もしくは問題が大きく、精神的なストレスを感じる	問題があり、週に数回悩んでいる。もしくは問題が大きく、精神的なストレスが大きい	問題があり毎日悩んでいる。もしくは問題が大きく、精神的なストレスが耐えられない



D6.3 他の人の態度と行為によって、あなたの尊厳を傷つけられたことがどれだけありましたか。

障がい特性が理由で近所の人とトラブルがあり嫌なことを言われる。人的トラブルに焦点を当てる。

役所の窓口で心無いことを言われる事やお店の利用を断られることも含む。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
抱えている問題がない	問題はあるが、クリアできている。多少のストレスはあるが、大きくはない	問題があり月に数回悩んでいる。もしくは問題が大きく、精神的なストレスを感じる時がある	問題があり、週に数回悩んでいる。もしくは問題が大きく、精神的なストレスが大きい	問題があり毎日悩んでいる。もしくは問題が大きく、精神的なストレスが耐えられないほどである



D6.4 健康状態またはその改善のために、どれだけの時間を費やしましたか。

通院、リハビリ、カウンセリング、事業所内の面談や相談等の利用回数を確認し、時間の捉え方はその時の気分や状態、また人によっても異なるため、回数で決める。

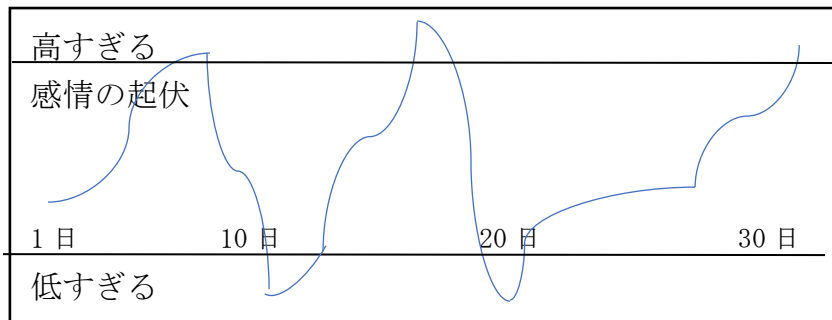
スコア 0回/1W=1点、1回/1W=2点、2回/1W=3点、3回/1W=4点、5回/1W=5点、

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
週に0回~月に1回程度	週に1~2回程度	週に3回程度	週に4回程度	週に5回以上



D6.5 あなたの健康状態によって、どのくらい感情に影響を受けましたか。

健康状態による感情のマイナス面を評価する。ただし、躁病それに近いケースの場合は高まり過ぎた感情もマイナスとして評価する。感情の影響については、怒り・悲しみ・後悔、その他の評価者から観て一般的な感情の軸から低くなり過ぎたり、高くなり過ぎたりした場合を評価する。



※上記の図表の場合は2点とする。入院の場合は入院期間も感情に影響を与えた期間として評価する。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
感情の起伏に問題はなかった	1カ月の中で、感情の起伏により状態が悪い場面が <u>1回程度</u> あった	1カ月の中で、感情の起伏により状態が悪い場面が <u>2~3回程度</u> あった	1カ月の中で、感情の起伏により状態が悪い場面が <u>5回程度</u> あった	1カ月の中で、感情の起伏により状態が悪い場面が <u>毎週</u> のようにある

D6.6 あなたの健康状態はあなたやあなたの家族にどれくらいの経済的損失をもたらしましたか。

医療費や依存症、障がい特性で、コントロール出来なかった経済的損失を含む。ただし、コントロール出来ていた生活費の支払いについては出来ていると判断する。金銭的な感覚は世帯ごとで異なるため、以下の表の金額から判断する。

例) 必要な買い物や趣味で金銭をコントロールしながら管理が行えている場合は出来ているとし、必要以上に買い過ぎてしまったことや、依存症による過度なパチンコや飲酒、健康状態が良くないため医療費がいつも以上に掛かってしまうこと、また近年では携帯電話のゲームの課金やオンラインで高級品の購入なども含めて判断する。本人のお金だけでなく家族のお金も含み、健康状態が悪い時に家族にお金をもらいに行くことは、経済的損失とみなす。健康状態が良い時も同様であるが、健康状態によって金額の違いは出てくる可能性が高いので、下記を生活上の必要以上に使用した金額として考える。計画的に購入したものはコントロールできているので、5点とする。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
1カ月の平均が <u>0円</u> から <u>5000円未滿</u>	1カ月の平均が <u>5000円</u> から <u>10000円未滿</u>	1カ月の平均が <u>10000円</u> から <u>20000円未滿</u>	1カ月の平均が <u>20000円</u> から <u>30000円未滿</u>	1カ月の平均が <u>30000円以上</u>



D6.7 あなたの健康上の問題によって、家族がどのくらい問題を抱えましたか。

家族が抱える問題について情報を求める。経済的、感情的、身体的負担も含めて評価する。日頃から聞き取りが行えている場合については、その情報をもとに判断する。難しい場合は、他の家族と比較する。

家族からほとんど疲弊していることを聞かないとなれば5点とするが、問題を抱え込んでしまっている場合もあるので、そのことも踏まえて確認する。(家族がいない場合は、GHは職員、通所は職員の支援量の増加で判断)

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
家族から疲れていることを聞かない 家族も疲弊している様子はない	家族から疲れていることを <u>何度か聞いた</u> 家族たまに疲弊している	家族から疲れていることを <u>月に数回聞く</u> 家族が月に数回疲弊している様子を見かける	家族から疲れていることを <u>週に1回程度聞く</u> 家族はよく疲弊している	家族から疲れていることを <u>よく聞いている</u> 家族はひどく疲弊している



D6.8 自分でリラックスや楽しめをしようとしたときにどれだけ問題がありましたか。(ヘルパー含む)

物理的・心理的な面からも確認する。物理的に街がバリアフリーでないため、行きたいところに行けないことは問題とする。ただし、段差はあるがそれを解消してくれる人(ヘルパーも含む)がいる場合は、問題ないとする。この場合のヘルパーの人手不足は問題とする。精神的な面では、家族や地域の人からの耐え難い暴言、差別的な発言も含む。金銭的な問題で行えない場合も考えられるが、リラックスや楽しみはお金がなくても出来ることはたくさんあるので、その範囲も確認する。ただ、金銭的課題が大きい人には、健康状態が悪い時はスコアが低くなる可能性がある。金銭面での心的な反応も踏まえて判断する。

5点 (100~96%)	4点 (95~76%)	3点 (75%~51%)	2点 (50~5%)	1点 (4%~0%)
問題なく過ごせている	少し問題はあるが、リラックスや楽しみを満足して行えている	少し問題があり、リラックスや楽しみを満足して行えないときがある	問題が大きいためしかリラックスや楽しみが行えない	物理的にも心理的にもリラックスや楽しみは出来ない

